

青梅市文化財ニュース

第 1 7 5 号

平成14年5月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

早く訪れ過ぎた御岳山の春

今年は例年に比べて異常に早く春が訪れました。気象庁によればサクラの開花は観測史上、最も早い記録であったそうです。

御岳山上にある御岳ビジターセンターでは、平成7年(1995)から大塚山においてフェノロジー調査を行っています。フェノロジー調査とは、生物の季節(植物も含めて)を調査することです。御岳ビジターセンターでは、この調査を行うに当たって、調査地を大塚山とし、調査植物については25科37種を選んで行うことにしました。

これ以下の記述は、そのフェノロジー調査を参考に今年の春がいかに早くやってきたかを検証したものです。

調査地である大塚山は、標高920メートルで御岳山の北に位置しており、周辺はミズナラ・コナラを中心とした落葉広葉樹の二次林とスギやヒノキの植林地が混在しています。今回の対象種としては、上記の中より春に開花するものを選んで行うこととしましたが、サクラ(ソメイヨシノ)は含まれていないので御岳ビジターセンター周辺のものを対象にしました。

フェノロジー調査に基づいた開花状況

種名\年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年
マンサク	2月18日	3月16日	2月21日	2月24日	2月23日	2月10日	3月9日	2月2日
アセビ	3月28日	4月5日	3月14日	3月22日	3月30日	3月28日	3月30日	3月19日
カタクリ	4月16日	4月10日	4月3日	4月12日	4月1日	3月30日	4月1日	3月19日
ダンコウバイ	4月4日	3月5日	3月11日	3月22日	3月30日	3月28日	3月24日	3月12日
アブラチャン	4月6日	4月19日	4月10日	4月4日	3月28日	4月14日	3月29日	3月22日
キブシ	4月11日	4月10日	3月28日	4月12日	3月30日	4月14日	3月29日	3月19日
アケボノスミレ	4月27日	4月28日	4月8日	4月18日	4月27日	4月25日	4月10日	4月2日
ソメイヨシノ	4月22日	4月26日	4月15日	4月10日	4月13日	4月15日	4月10日	4月1日
ミツバツツジ	4月27日	4月27日	4月10日	4月18日	4月13日	4月13日	4月12日	4月2日
ヤマザクラ	5月2日	4月28日	4月26日	4月21日	4月27日	4月30日	4月20日	4月6日
オトコヨウゾメ	5月9日	5月9日	5月7日	4月26日	5月7日	5月12日	5月13日	4月29日
ヤマツツジ	5月23日	5月23日	5月7日	5月16日	5月25日	5月25日	5月17日	5月10日
ホオノキ	5月26日	6月1日	5月27日	5月16日	5月15日	5月25日	5月19日	5月12日

(裏面につづく)

この調査は、毎日行っているものではないので開花日について多少ずれていることは否めません。また、調査対象の樹木を固定しているため、別の木が開花していたとしても蕾の状態に記入されている場合があります。さらに花を付けない年もあったので、その場合は他の資料（業務日誌）から転載しました。

以上の点から考察しても、今年の春の早さは異常であるといえます。ソメイヨシノにおいては、もっとも開花の遅かった平成8年に比べると、ひと月近く早い開花でした。

暖冬の年は降雪が多くなるものですが、今年は暖冬であっても雪が降った日数は多くありませんでした。こんなことも影響を与えているのかも知れません。

それでは今年の気温は昨年と比べてどうであったかという点、下表のとおりとなります。

		1月	2月	3月
平成13年	平均気温	-2.2℃	-0.8℃	2.5℃
	真冬日の日数	7	5	2
平成14年	平均気温	0.2℃	0.2℃	(4.0℃)
	真冬日の日数	2	2	(…)

※角田清美氏 気象観測資料より

※平成14年3月については資料なし

平成14年3月の資料がないため確かなことは言えませんが、手元の気温データからは、平均気温が約4.0℃で、真冬日はありませんでした。これが地球温暖化の影響なのか、またはエルニーニョ現象の影響なのかは専門家に委ねることにしますが、植物がこの暖かい気温に促されて活動を早めてしまったのは間違いありません。しかも例年にない異常な早さです。

植物が早く活動を始めたのと同様に、昆虫も早くから活発に動き出しています。ウスバシロチョウも5月1日には優雅に畑の周りを飛び始めていました。これも例年に比べれば2週間ほど早い記録です。

しかしながら野鳥に対しては、これがどうもじっくりと当てはまらないようです。これだけ早ければ、ツグミなどの冬鳥が早くに移動しても良さそうなものと思われましたが、ツグミやマヒワなどは例年と変わらない時期に移動していました。キツツキ類のドラミングが聞こえ出したのも、ウグイスがさえざりだしたのもほぼ例年どおりであり、シジュウカラやヤマガラが多少早かったとしてもあわてて巣作りをし出したということも見受けられませんでした。

早い春の訪れにいちばん動揺したのは人間だったのかも知れません。改めて自然の気まぐれさを痛く感じた平成14年の春でした。

(文責 金井 国俊)